

# 曳山図面化のための、部材写真撮影 説明会資料

現在、特活法人大津祭曳山連盟では、大津祭を国の無形民俗文化財の指定（国指定）に向け活動しています。大津市も大変前向きに推進しています。国指定を受けるための調査報告書に曳山図面の添付が必要になります。今回の写真撮影は、この図面を作成する上で、姿形を詳しく図面化する重要な作業の一つです。撮影された写真から図面を起こします。

過去に国指定を受けた屋台や曳山はほとんどが組み上がったままで、藏に収納されるので、いつでも測量・図面化が可能でした。しかし、大津祭の場合は、分解して藏にしまう為、全体像を正確に図面化することが出来ません。

今回の写真撮影は2つの目的があります。

- 1、曳山の部品の写真を撮影し、これを元に図面を作成する。（図面作成は来年度）
- 2、曳山の装飾金具の調査も必要になるので、予めどのような物があるのか記録に残し、専門家の調査の基礎にする。

初めての試みであり、山建ての時間遅延になりますが、大津祭の将来を考えての必要作業です。大変面倒な作業ではありますがご協力、よろしくお願いします。

## ■準備

カメラ デジタルカメラ 300万画素以上 フィルムカメラ 携帯デジカメは不可  
スタック（長尺棒） 曳山連盟が用意します。

脚立

## ■撮影場所

なるべく屋外でお願いします。フラッシュをたくと反射しすぎます。

脚立や他の物が写り込んでもかまいません

## ■撮影箇所

8月の曳山責任者会では曳山の全部品、全金物を撮影するとお伝えしましたが、以下の部材と金物とします。

幕やからくり人形は、すでに歴史博物館に調査報告書があるので、今回は割愛します。曳山の車輪や轆（ながえ）および構造部材も割愛します。

### ①曳山の部材

別紙1 1-2 曳山部材名称一撮影箇所

1. 獅子口（鬼瓦）
2. 箱棟
3. 屋根関連部材
4. 天井
5. 軒（屋根の下から見上げたときの部材）
6. 桁隠（けたかくし）
7. 枅形（ますがた）
8. 欄間彫刻
9. 頭貫（かしらぬき）
10. 虹梁（こうりょう）
11. 飛貫（ひぬき）
12. 懸魚（けぎょ）
13. 唐破風
14. 四本柱
15. 衣桁（イコウ 又は高欄）袖
16. 幕押
17. 泥除（又は高欄）
18. 前掛けの下に化粧の板がある場合（狐格子等）
19. その他各曳山ごとの特殊な部材

### ②金物（装飾金物）

装飾金物のみ。8月の曳山責任者会では栓や留め金もお伝えしましたが、装飾金物のみです。なお木材に金箔を貼った物は金物ではありません。

この写真の利用目的は、曳山の装飾金具の調査も必要になるので、予めどのような物があるのか記録に残し、専門家の調査の基礎にします。

## ■撮影方法

撮影した写真を製図ソフトに取り込みこの写真を上からなぞることにより作図を行います。写真は出来る限り真正面から、手ぶれしないようにお願いします。

立面図（別紙1－2）を作成するので、外側に面した部分の撮影をお願いします。（曳山の内側から見える部分は割愛して下さい）。疑問があればなるべく多めに撮影願います。

### □長い部材（幕押さえ、唐破風、頭貫など） 別紙 4、-2

スタック（長尺棒）をあてて、全体を1枚、部分を3から4枚に分けてアップでの撮影をお願いします。

アップで部材表面の彫刻や、色柄をよく見えるようにします。

部材の厚みがわかるような側面の写真も1枚撮って下さい。

### □大きい部材（箱棟等）

箱棟などは、真上からの写真と、特に側面（細かい彫刻）の写真が重要になりますので、全体1枚、部分に分けて3から4枚アップの撮影を願います。

### □厚みのある部材（獅子口、湾曲した屋根など） 別紙 5

正面の写真、と側面の写真を撮影し、厚みがどれくらいあるのか、形がどうなっているのか、がわかるように撮影願います。

### □装飾金物 別紙 6

単品で収納されている金物は単品で、取り外せない物は部材に付いたままで結構です。部材全体を撮影するときに、同時に、金物の部分撮影を兼ねて下さい。

記録写真を撮る目的でなく、どのような物があるのかを知る為なので、同じ種類の物はかためて一度に撮影して下さい。各町によって、いろいろな種類があると思います。正面からだけでは形がわかりにくいと思った場合、斜めからの撮影もお願いします。この写真を元に、来年度以降、専門家により実物を調査していただきます。

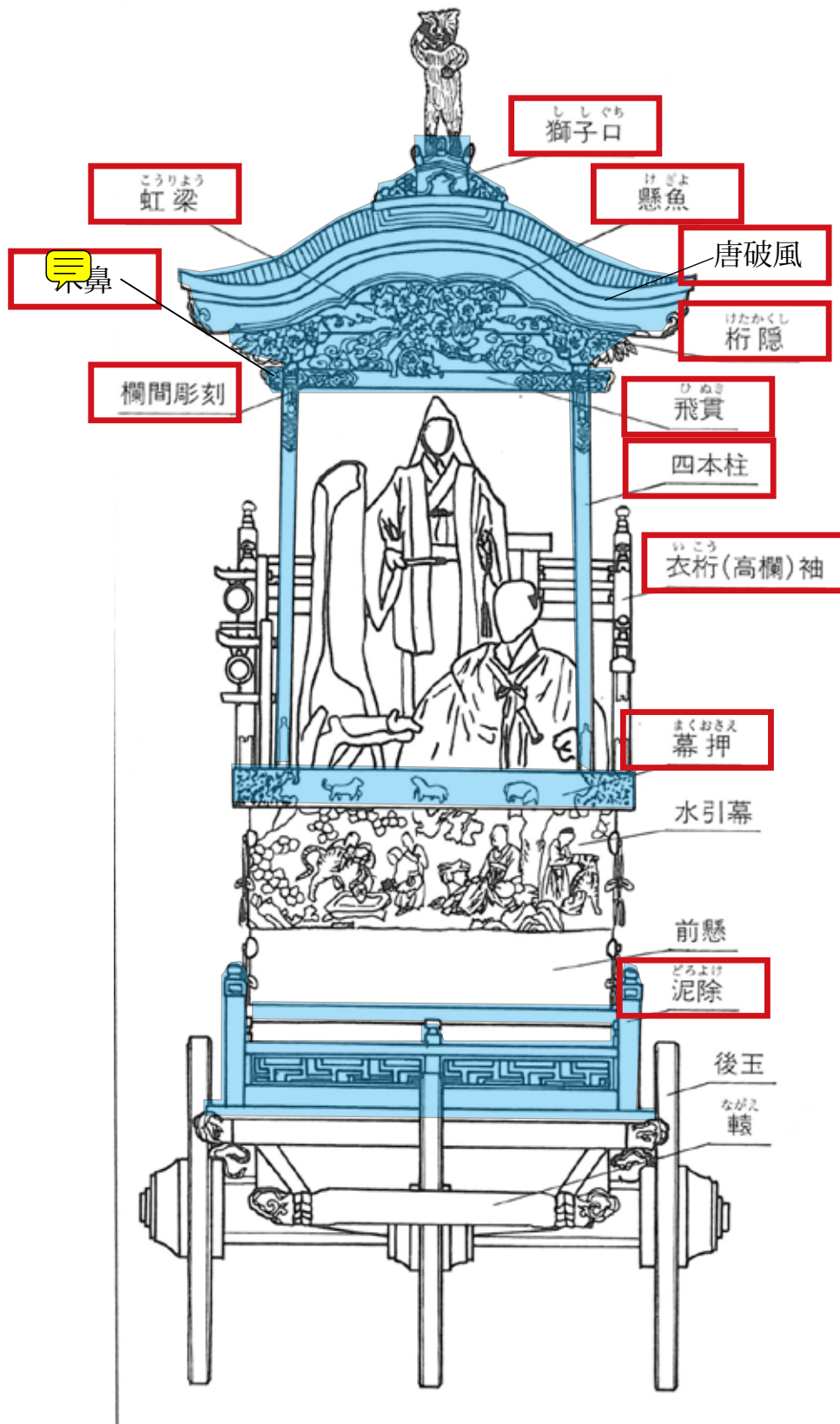
## ■撮影データのご提出

撮影データはCDRに焼いてご提出下さい。印画紙に焼く必要はありません。プリントアウトも必要ありません。

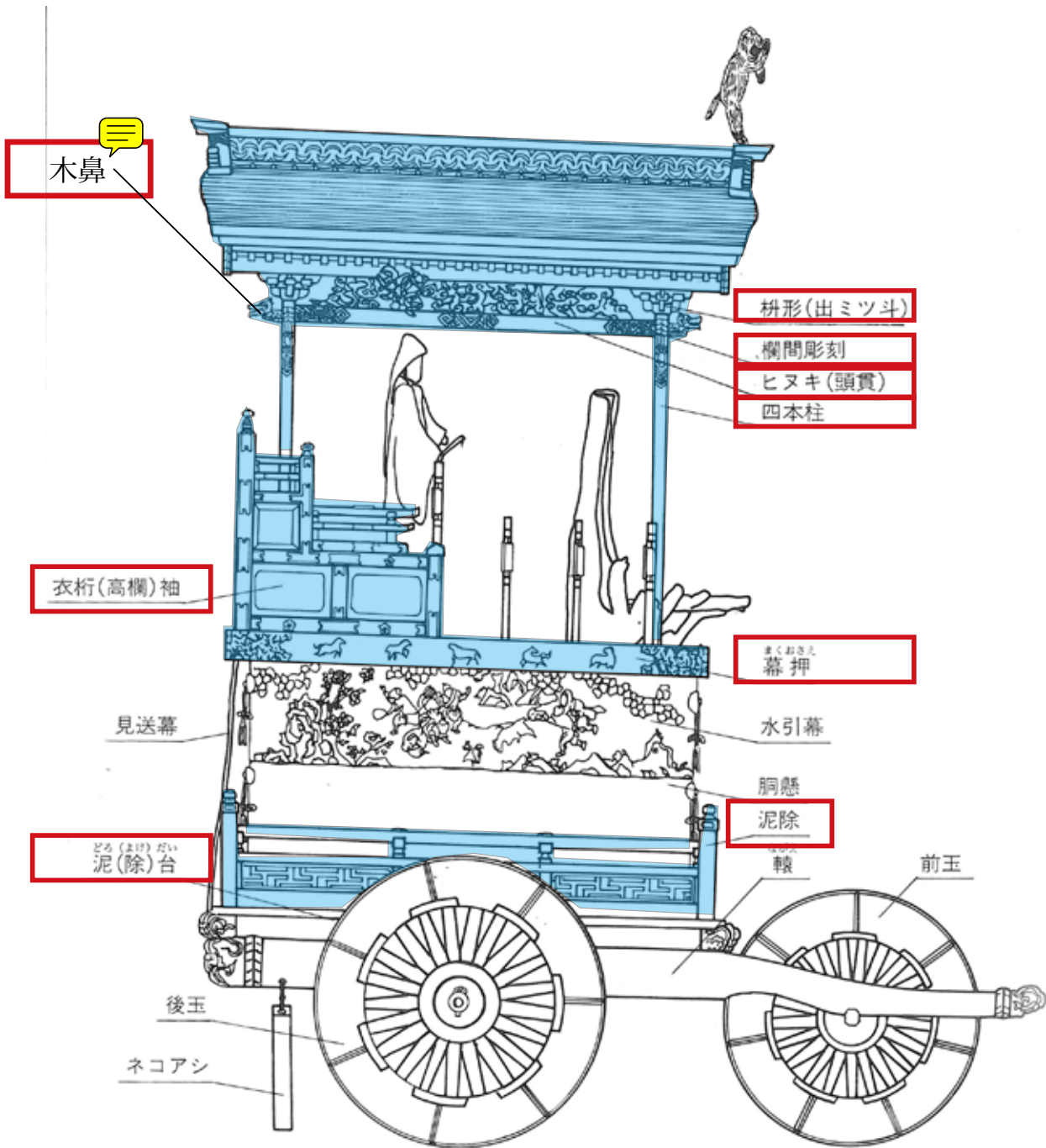
カメラのデータ転送方法がよくわからない場合は、曳山展示館にご相談下さい。

## ■提出時期 10月末まで

別紙1 曳山部材名称 - 撮影箇所



別紙 1 - 2 曳山部材名称 - 撮影箇所



## 別紙2 撮影方法 長い部材（幕押、唐破風、頭貫など）

スタック（長尺棒）をあてて、全体を1枚、部分を3から4枚に分けてアップでの撮影をお願いします。アップで部材表面の彫刻や、色柄をよく見えるようにします。

部材の厚みがわかるような側面の写真も1枚撮って下さい。



写真のように、脚立や他の物が写り込んでもかまいません



写真のように、部分拡大の写真の複数枚に分けて撮影しておいて下さい。

### 別紙3 撮影方法 長い部材（唐破風、など）

スタック（長尺棒）をあてて、全体を1枚。特に唐破風は正面から図面を書く際に曲線を正確に捉える部材ですので、最大限正面からの撮影を心がけて下さい。



この撮影は脚立を用いましたが、壁に立てかけるなどでもかまいません。より正面から撮影できて、スタック（長尺棒）の寸法がよく見えるようにして下さい。

※脚立利用の場合、転落などに注意して作業願います。

## 別紙4 撮影方法 長い部材（4本柱）

大変長いので、全体を撮影しません。

ここで記録に残したい部分は、全体長さ、外面に面した、彫刻や彩色です。スタック（長尺棒）を全部伸ばして、柱に当てます。先端の金属の棒から、一番下まで。写真は、部分ごと、3枚くらいに分けて撮ります。頂部と柱の一番下が写っていれば、柱の長さが写真で確認できます。後は彩色や彫刻部分の写真を撮影して下さい。



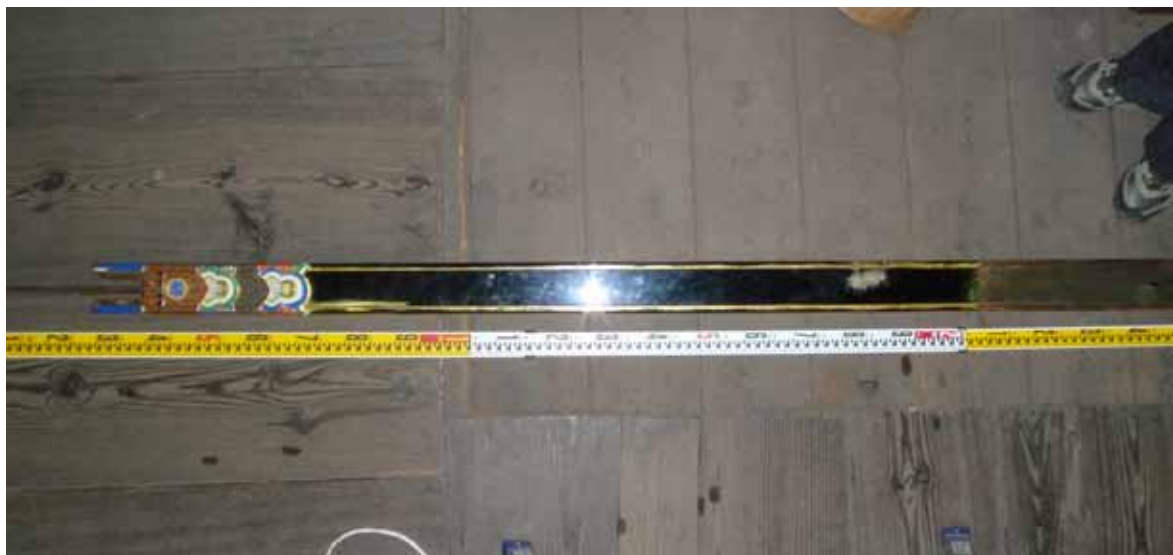
上の写真2枚で、柱の長さが最大3m 60cm、木部ノミは3m 35cm、金属の棒が25cmと読み取ることが出来ます。



## 別紙 4 - 2 撮影方法 長い部材（4本柱）

ご注意

柱4本がどの面も彩色彫刻が同じ柄の場合写真は1枚でかまいませんが、柱によって柄が違う、面によって違う、彫刻が4本とも違う場合、4本の各面の写真を撮影して下さい。なるべく一度に4本並べて撮影して下さい。写真点数が減り、図面左雨声側も助かります。この場合柱は10cmくらい離して撮影下さい。



上の写真は、彩色が無いので不要です。



## 別紙 5 撮影方法 厚みのある部材（獅子口、湾曲した屋根など）

正面の写真、と側面の写真を撮影し、厚みがどれくらいあるのか、形がどうなっているのか、がわかるように撮影願います。



側面からの写真を取り忘れました。このようなことがないように願います。



## 別紙 6 撮影方法 装飾金物

単品で収納されている金物は単品で、取り外せない物は部材に付いたままで結構です。部材全体を撮影するときに、金物の部分撮影を兼ねて下さい。同じ種類の物はかためて一度に撮影して下さい。正面からだけでは形がわかりにくいと思った場合、斜めからの撮影もお願いします。

